

# 令和3年度

## まちづくり推進部の方針書

部名	まちづくり推進部
部長名	佐藤 雅義

### 1. 部の使命(ありたい姿)

協働・文化・安全安心・健康をキーワードに、「人と地域が燦くまち」を支えます。

担当政策	政策6: やさしさと笑顔があふれる市民が主役の地域づくりを進めます
担当施策	3-1: 安心して暮らすことのできるまちづくりの推進 6-1: 市民の主体的な活動の支援と地域づくり活動の充実 6-2: 男女が尊重しあう社会づくり 6-4: 市内外との交流連携の推進

### 2. 部の抱える課題(現状)

- (1) 自ら地域課題の解決を目指す地域運営組織を、全地域に設置する必要があります。
- (2) 歴史・文化・マンガ等、横手の宝を、一層まちづくりに活用する必要があります。
- (3) 公共施設の長寿命化と適正な維持管理により、安全安心のまちづくりを進める必要があります。

### 3. 今年度の『スローガン』

常に一歩前へ、市政の最前線で頼れるまち部

### 4. 今年度の方針

- (1) 市民が主役の地域活動による持続可能な住み良いまちづくりを進め、人口減少ストップに貢献します。
- (2) 歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かした、市民が誇りに思えるまちづくりを進めます。
- (3) 公共施設の長寿命化と適正な維持管理による安全安心の確保と、市民サービスの向上を図ります。

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民が主役の地域活動による持続可能なまちづくり
	取組内容	①令和4年度の山内の地区交流センター化に向け、地域運営組織の設立を支援します。また、境町や三重などの地区交流センター化を見据えた準備委員会の立ち上げやワークショップの開催を支援します。 ②地域づくり活動補助金及び集会所整備費補助金の活用の周知と併せ、制度の見直し案を策定します。 ③ワークライフバランスと男女共同参画の推進を図ります。
(2)	実現したい成果	歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かしたまちづくり
	取組内容	①文化観光拠点としての増田まんが美術館の活用と情報発信を進めると共に、重要伝統的建造物群保存事業の着実な実施により増田の町並みの魅力向上と横手市全体の賑わい創出を図ります。 ②歴史文化遺産保存活用地域計画の文化庁認定を目指すと共に、歴史的風致維持向上計画に位置付けられた北部重点区域環境整備検討事業及び旧片野家詳細調査を進めます。 ③返礼品のブラッシュアップにより、ふるさと納税の寄附額アップを目指します。 ④市の情報発信と観光地域づくりに貢献する、地域おこし協力隊の人材確保を図ります。
(3)	実現したい成果	公共施設の適正な維持管理による安全安心の確保と、市民サービスの向上
	取組内容	①道路・河川・公園・建物等公共施設の適正な維持管理を進めます。 ②市民に寄り添う窓口サービスの向上と、健康寿命の延伸を目指します。 ③増田庁舎・オアシス館・十文字環境改善センターの改修事業及び十文字西地区交流施設整備事業など、各施設の長寿命化や機能向上を図ります。 ④一人ひとりが常に市全体と地域のことを考え、向上心を持ち続けるプロの行政マンを目指します。

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 境町・山内地区において、令和4年度からの地区交流センター化に向け準備委員会を開催した。三重地区では、令和5年度の地区交流センター化を目指し住民への説明会を開催している。  
地域づくり活動補助金について、制度改正に向け補助金の交付実績の確認等準備作業を行った。
- (2) 増田まんが美術館を中核とした地域資産活用地域計画に基づく国庫補助事業は、9事業が採択を受けている。美術館はコロナ禍にありながら企画展が人気を呼び、入込み客は昨年同期を上回っている。  
重伝建地区の修理事業3件5棟については、ほぼ順調に進捗している。歴史文化遺産活用地域計画については、7月16日文化庁長官から認定を受けた。  
歴史的風致維持向上計画推進事業における北部重点区域環境整備検討事業及び旧片野家詳細調査については、現在委託等により進捗を図っている。  
ふるさと納税については、参加事業者向けのセミナーを開催したほか広告宣伝の強化を図っているが、9月末時点での納入実績は前年比89.7%である。  
地域おこし協力隊については、情報発信2名、観光振興1名の任用が内定している。
- (3) 増田庁舎・オアシス館・十文字環境改善センター及び十文字西地区交流施設の工事は、順調に進捗している。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 境町・山内地区においては、年度内の自主運営組織設立を目指す。三重地区においては、準備委員会を開催すると共に地区交流センター化について地域全体の理解を図る。
- (2) 増田まんが美術館と増田の町並みの連携事業については、コロナ禍によりこれまで町並み側での集客が難しい状況にあったが、増田町観光協会・まんが美術財団と共に学習旅行の誘致に向けて情報発信を図りたい。  
重伝建地区事業については、今年度の事業の着実な進捗を図るほか、令和5年度事業の候補物件の検討が必要である。  
歴史文化遺産保存活用地域計画については、庁内及び広く市民に一層の周知が必要である。
- (3) 冬季を控え、市道を含む公共施設の適正な維持管理が重要課題である。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 境町・山内地区においては、予定通りの自主運営組織が設立され、4月からの地区交流センター化が図られる見通しである。三重地区においては、準備委員会が組織され、黒川地区と共に令和5年度の交流センター化について、地域のコンセンサスが図られつつある。また、十文字地区において、交流センター化に向けて動きが起きており、支援を強化する必要がある。
- (2) 増田まんが美術館においては、徹底的な新型コロナウイルス感染対策が図られ、入館者数は減少しているものの有料入場者数は前年を上回り修学旅行の受け入れも大幅に増加している。しかし、増田の町並みは公共施設の休館措置もあり集客が難しい状況であった。新型コロナウイルスの動向を見据えながら新年度の事業展開を図る必要がある。  
重伝建地区事業については、今年度の事業は予定どおり実施され、令和4年度保存事業も3件が内定している。  
歴史文化遺産保存活用地域計画については、認定報告会を開催するなど市民に周知を図ったが、今後の事業展開により実のある計画としたい。
- (3) 昨年度に引き続き豪雪に見舞われたが、市道を含む公共施設の維持管理は適正に行われた。